

矢掛町合併70周年 地域と未来を担う人づくり



地域住民も参加した中川っ子の未来を語る会



中高生の声を届けたやかげ未来まちづくりフォーラム



多くの参加者で盛り上がった矢掛町民運動会



やかげ文化センターでは70周年記念行事を多数開催

目 次

特集	②～③
学校だより	④～⑦
公民館だより	⑧～⑪
学校教育この一年	⑪

文化財この一年・健康スポーツこの一年	⑫
やかげ郷土美術館この一年	⑬
やかげ文化センター・矢掛町立図書館この一年 ...	⑭



「地域と未来を担う人づくり」

～家庭・学校園・地域のつながりを大切にして～

矢掛町では、家庭、学校園、地域のつながりを大切にして「ふる里やかげを愛する人づくり」「変化の激しい社会を生き抜く力の育成」「学びを通じたウェルビーイングの向上」を基本方針に、地域と未来を担う人づくりを進めています。

また、生涯学習や文化財の保存活用等を推進し、文化・スポーツ振興を図り、学びを通じた人づくりや安全・安心の地域づくりなど、魅力ある地域社会の形成を目指します。

※ウェルビーイング…個人がそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあること。自分の生きる道だけでなく、家族や友人、住む街・国がどのようにすれば良い状態でいられるのか考えること。

令和7年3月

矢掛町教育委員会教育長 山部 英之

矢掛町合併70周年記念事業

「やかげ未来まちづくりフォーラム」を開催

令和6年7月31日、矢掛町合併70周年記念事業の一環として「やかげ未来まちづくりフォーラム」を開催しました。

このフォーラムでは、例年実施していた「中学生による模擬議会」をより発展させ「持続可能な矢掛町」を目指し、矢掛中学校と矢掛高校の生徒それぞれが提案や意見を発表しました。

矢掛中学校の生徒は寸劇を交えながら、「健康づくり」と「防災体制」を主なテーマとして「各小中学校の体育館へのエアコン設置」や「町内在住の小中高生、70歳以上の人を対象にした運動施設利用料の無償化」、「中学校への防災自動販売機の設置」について提案。

さらに、矢掛高校の生徒は「みんなの居場所づくり」、「安心して住めるまち」、「人と人との繋がれるまち」をテーマに発表。「みんなが学び遊べる場所づくり」、「交通手段の確保のため送迎ボランティア制度の導入」、「旧矢掛駅前交番の活用」、「人とのつながり強化に向けたキャッチフレーズづくり」について提案しました。

これを受け、山岡敦町長、山部英之教育長、浅野毅議長はそれぞれコメント。提案の中から中高生が優先的に利用できる学習スペースを町立図書館内に整備し、8月から利用可能となりました。さらに文化センターエントランスホールに中高生が集えるスペースとなるよう机と椅子を増設しました。

この日は岡山大学研究・イノベーション共創機構の岩淵泰准教授をコーディネーターとして迎え、パネルディスカッションも実施。テーマ「私たちの考える10年後の矢掛町」について山岡町長、山部教育長を交えながら意見交換を行いました。





岩淵准教授からの「10年後の矢掛町がどうなっていてほしいか」という問いに対して、生徒からは「防災に強い町」、「どのまちとも違った長所がある町」「矢掛町の魅力が詰まった商品や行事がある町」といった発展的な意見がありました。

矢掛町の未来を担う中高生がまちづくりを自分事として考えるきっかけとなり、主権者教育の一環としても若者の意見を聞く貴重な場となりました。

おめでとうございます

県青少年健全育成成功労者表彰 岡山県知事表彰（団体） 中川ソフトボールスポーツ少年団

長年にわたり青少年の健全育成に尽力された功績が認められました。



令和6年度児童生徒人権啓発ポスター

岡山県下の児童生徒を対象に22,969点の応募の中から、見事入賞しました。

岡山県教育委員会教育長賞 矢掛小2年 檜崎 紗菜さん



矢掛小学校 2年
檜崎紗菜さんの作品

岡山県町村会長賞 矢掛小1年 難波 彩乃さん



矢掛小学校 1年
難波彩乃さんの作品

岡山県わかば賞（青少年の善行をたたえる賞）

小北中1年 坂本莉来さん

ケガをして動けなくなった男性を救助しました。



坂本莉来さん

鹿島朝日高2年 阿部瑞樹さん

矢掛中3年 阿部七望さん

矢掛中2年 渡邊令一さん

川で溺れかけている女性を協力して救助しました。



渡邊令一さん(左) 阿部七望さん(右)

学 校 だ よ り

地域とともにある美川小学校

美川小学校

児童数が年々減少している中において、美川小学校では、子ども達の力で地域を元気にすることを目標に、地域貢献活動を取り入れています。

6月の土曜参観日には、地域のシニアクラブを招待して、児童・保護者・地域の方が一緒になってカローリング大会をしました。10月には、一人暮らしの高齢者宅を児童が訪問し、弁当と敬老の日をお祝いする手紙を手渡しました。12月には、野菜の作り方を教えてくださった地域の名人さんを学校に招待し、収穫した野菜を使ってパーティーを開きました。1月には、学校運営協議会委員の方と児童・保護者でグループを作り、「美川地区のために何ができるのか」をテーマに熟議を行い、地域のために自分達が取り組めることを考えました。

このような活動をすることにより、地域の方からは、「子ども達から元気をもらっている。」「子ども達と触れ合うことが何よりの楽しみ。」「子ども達のために何かできることをしたい。」というお言葉をいただいています。児童の数は少ないですが、地域の一員として地域に貢献できる子どもになってほしいと願っています。



カローリング大会



一人暮らしの高齢者訪問



収穫祭

毎月10日はありがとうの日

矢掛小学校

矢掛小学校では、「スクラム21総会」という熟議の会を6月に開催し、子ども達の自己肯定感を上げるために何ができるかを、学校、地域、保護者の代表者が集まって話し合いました。そして、「毎月10日はありがとうの日」という合言葉を決め、意識して積極的・具体的に子ども達のよいところをほめたり、「ありがとう」を言ったりする日にしています。

小学校では、帰りの会などで友達のよいところや「ありがとう」を伝え合っています。12月の人権集会では、各学級の取り組みを発表し、みんなで「ありがとうの花」という歌を歌いました。矢掛小学校の児童は、「自分のよいところってこういうところなんだな。」と自覚できる子どもが増えています。これからも、「毎月10日はありがとうの日」を、地域にもしっかり発信しながら、矢掛の地域全体で温かく子ども達を見守っていけたらと思います。



ありがとうの花



人権集会

毎月10日は
ありがとうの日



ポスター

新聞っておもしろいな

三谷小学校

三谷小学校では、今年度からの2年間、岡山県NIE推進協議会からNIE実践指定校の指定を受けています。NIEとは「教育に新聞を」と訳されるように、学校の様々な教育活動の中で新聞を教材として活用する活動を行うことです。1年次の今年は、「いかに楽しく児童と新聞をつないでいくか」を実践のポイントに据え、様々な取り組みを行っています。

まず、7社の新聞が4か月間無償で提供されることを受け、それらを2階中央廊下に置き、子供たちが自由に手に取って読んだり、自主学習の資料として活用したりすることができるようになりました。

また、山陽新聞の子ども新聞「さん太タイムズ」を活用して、読解ワークシートやクロスワードを週末課題として家庭の中で行う取り組みもしています。

他にも、「さん太タイムズ」に掲載されている「ふるさとの民話」を図書館司書が校内放送で行う読み聞かせや、新聞記事の見出しを隠して子供たちが自らの発想でオリジナルの見出しを考える「見出しコンクール」なども始めました。

「新聞っておもしろいな」「自分の意見を書くって楽しいな」という経験を重ねることで、子どもたちが社会に目を向け、自らの思いを積極的に表現する力を育みたいと考えています。



教室に掲示している新聞を見る様子



中央廊下のNIEコーナー

山田のこれからを考えよう！

山田小学校

今年度、熟議「山田地区座談会」に初めて6年生児童が参加しました。6年生児童に加えて、学校職員、保護者、地域の方など様々な立場や世代の方が集まり、意見交流を行うことができました。テーマは、「山田のこれからを考えよう！」です。「山田の良いところ、それを高めるためには？」「山田のちょっとおいしいところ、それをカバーするためには？」「山田の伝統、それをつなぐためには？」の3つの話題についてグループごとに考えました。活発な議論の後、グループごとにまとめた内容を参加者が見て回り、共感できるところにシールを貼っていきました。様々な意見を参考にしつつ、最後にグループの代表者が発表し、全員で共有しました。

初めて児童が参加しましたが、様々な立場を超えて、学校や地域のよさ・課題、自分と学校や地域とのかかわりについて考え、思いを交流し、深めることができました。熟議をもとに、6年生が山田のよさを広める活動に取り組んでいます。今後も「地域とともにある学校づくり」を進めていきたいと思っています。



デジタル時代を生きる子どもたちへ

川面小学校

～川面小学校のデジタルシチズンシップ教育～

本校では、児童のメディア利用に関する実態を把握し、実態に合わせた取り組みを行っています。警察による「インターネットモラル教室」や専門家による授業を実施しました。

インターネットの安全な使い方や自分自身のメディア利用について深く考え、バランスの取れた使い方を学びました。また、PTA人権教育講演会では、保護者の方々にもご参加いただき、ネット社会の現状や安全なインターネット利用について学びました。さらに、学校保健委員会では、健康委員会の児童が、自分たちで作成したドラマを通して、メディアの適切な使い方について、全学年児童と参加した保護者に伝えました。参加した児童は「ゲームの時間を決めて使おう」と前向きな気持ちになったようです。また、インターネットには楽しいことだけでなく、気を付けなければいけないこともあることを知り、より安全にインターネットを使いたいという気持ちが芽生えました。さらに、発表を行った児童からは、「みんなに伝えられてよかった」という喜びの声も聞かれました。

その後、学校から児童のSNS利用に関する注意点などをまとめ、家庭へ啓発していきました。



PTA 人権教育講演会



学校保健委員会で感想を発表する児童



タブレットを上手に使った学び

地域とともに安全教育

中川小学校

～中国地方初のセーフティープロモーションスクールを目指して～

中川小学校は、平成30年の西日本豪雨で被災した経験から6年がたち、改めて地域とともに防災意識を高めようと、防災対策や交通安全、不審者対応などの様々な安全教育に取り組んでいます。

6月には「防災ワークショップ」を行い、児童・教員・保護者・地域住民・関係機関が集まり、防災について熟議をしました。10月の「地域合同防災訓練」では、学区の避難所見学や体育館での避難所体験、車中泊体験、防災頭巾作り、消火器体験、防災食体験などを行いました。児童は、初めての体験に戸惑いながらも、防災スキルを高めることができました。各学年では、児童の実態に合わせて、校内外を探検した後の危険箇所マップ作り、避難行動の練習、AEDやダミー人形を使った救命学習、VR体験、避難所カフェの開設などの学習を行いました。

11月の学習発表会では、低学年が安全学習で学んだことを劇にして、保護者や地域の人に楽しく伝えることができました。

このような安全教育の取り組みは、児童の安全意識を高めるとともに、様々な人と協働していくことの大切さを学ぶことになります。児童一人一人が、自分たちの住む町をより大好きになってくれればと考えています。



地域連携の再発見！

小田小学校

令和6年度は4月から「自分から」をキャッチフレーズに、子ども達の主体性を今まで以上に発揮できる場面の工夫を行っています。特に、1・2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間では、積極的に地域との交流を新たに開拓しています。

その一つとして、公民館で行われている小田地域ミニデイサービスを4年生が10月に訪問し、一緒に体操をしたり、お年寄りの生活について質問したりしました。この他にも、全身に重り、目にはゴーグルをつけてお年寄りの生活を追体験したり、足の不自由な方の生活を車イスで追体験したり、点字や手話を勉強するなどして目や耳の不自由な方の生活を学びました。

学習発表会では、これまで調べてきた矢掛・小田の福祉の現状や課題をもとに、「矢掛・小田にやさしさとどけ隊」として発表しました。



自ら考え行動し、主体的に学ぶ生徒の育成を目指して 矢掛中学校

矢掛中学校では、生徒が自ら考え、学び、たくましく生きていくために、「自ら考え行動する」を学校教育目標とし、様々な取り組みを行っています。

○ゆとりの創出、活動時間の確保

「17時下校」「月・水は5限まで」として、時間的なゆとりがもてるようにしています。カリキュラムを見直し、部活動の時間も確保しつつ、生徒が主体的に学習や諸活動に取り組めるようにしています。

○自らの学習を調整し、主体的に学ぶための取組

予習型課題「準備学習」や「単元テスト」「再テスト」を導入し、好奇心や疑問をもって授業に臨むことや、継続的・計画的な学習習慣を身につけることを目指しています。さらに、学習相談の機会を設け、生徒一人一人が自分に合った学習方法を見つけられるよう支援しています。

○協働的・課題解決的な学びの推進

「総合的な学習の時間」を協働学習や課題解決学習の柱と位置づけて、3年間で「矢掛探究」「商品開発」「地域貢献活動『やかプロ』」などの地域に根ざした活動に取り組めます。課題発見・解決力、コミュニケーション力、協調性など、これからの時代に必要なさまざまな力の育成を目指しています。また、「多様性」「人権」などに対する社会的な意識の高まりに合わせて、自発的・自治的な学校生活の改善・向上を目指して、校則の見直し等の活動に取り組んでいます。



学習相談



やかプロ当日



商品開発プレゼン

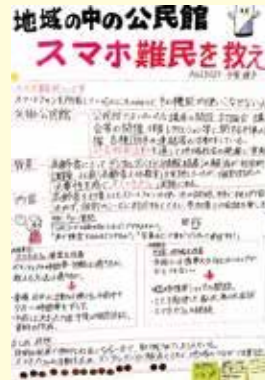
公 民 館 だ よ り

多世代交流のスマホカフェを目指して！

●矢掛公民館●

シニアのデジタルデバイド解消に向けて令和3年度より始めたのが「高齢者とスマホで交流会」。2年間は公民館専門部の事業として年1回行いましたが、個別対応の必要性を感じ、令和5年度からは開催日を毎月第3木曜日とし、自主参加の「スマホカフェ」をスタートさせました。幸いなことに、昨年度は岡山県立大学保健福祉学部 of 学生さんが授業の一環として参加してくれ、今年度も引き続きボランティア講師として矢掛公民館に協力してくれました。そんな彼女が指摘した課題は、「運営側のスタッフが少ない」「スタッフのスキルが不十分」でした。(仰るとおり!!)

さて、学生さんの凄いのはここからです。なんと課題解決プロジェクトを立ち上げてくれることになりました。いよいよ令和7年度からは「土曜日開催」も始まります。シニアの皆さんに限らず、様々な世代が集まってくれる「スマホカフェ」を目指します。



県立大生によるレポート



県立大生によるちらし



体育部員や大学生と



大学生と一緒に

サルやイノシシの被害から農作物を守る！ 鳥獣害対策講習会を開催

●美川公民館●

7月10日、美川公民館で「鳥獣害対策講習会」が開催されました。役場産業観光課の職員を講師に迎え、平日昼間にもかかわらず地区外からも参加があり、39人が集まりました。近年、地域ではサルやイノシシによる農作物被害が深刻化しており、農業従事者の負担軽減が求められています。

講習では、イノシシの捕獲檻の設置と餌の管理方法、サルの侵入防止策など具体的な対応が紹介され、参加者からは「管理方法が初めて分かった」「猟友会と協力する重要性を再認識した」といった声が寄せられました。また、講習中は実践的な質問が飛び交い、猟友会との交流も行われるなど、地域ぐるみの連携強化が進むきっかけとなりました。

今回の講習会は、美川公民館と自治協議会が共催し、地域の課題解決に向けた重要な一歩となりました。



第2土曜日は公民館

●三谷公民館●

昨年、三谷小学校の一児童が「春休みや休日もみんなで過ごしたい」と言ってきました。そこで、三谷小学校の三者懇談会において「余暇の過ごし方」について協議しました。そうしてスタートしたのが「第2土曜日は公民館」事業です。

1回目は9月14日に実施しました。訳あって避難所カレーの材料が公民館にあったので、参加してくれたママと料理したい児童とで作りました。興味の無い児童は、宿題や三谷地区社協所有のレクリエーションゲームをして過ごしました。

2回目は10月に実施。前半は屋内で勉強や折り紙に興じ、後半は企画に賛同してくれた児童のパパによる「子どもvs大人 水鉄砲合戦」を行いました。いずれの回も20人ほどの児童と、高校生を含むボランティア7～8人の参加を得て、楽しい時を過ごすことができました。

「したいことをする。誰でも参加できる第2土曜日は公民館」を細く長く続けたいものです。



みんなで避難所カレーを作りました



子どもたちの様子

山田の輪

「山田の輪」をテーマにし、行事を進めてきました。皆が一つの輪になって地域づくりをしていくことが公民館の役割だと思っています。全ての人が顔見知りになり、挨拶はもちろん山田のことを話し合える仲になってそれを考える地区になることが目指すところではないでしょうか。

盆踊り、ウォーキング大会、文化祭を柱に多くの住民が集い、語り合っ地域を盛り上げ、素晴らしい生活空間を創っていきます。皆様のさらなるご協力をお願いします。

●山田公民館●



竹あかりをつくろう

●川面公民館●

「優しい光に癒される竹あかりを、自分の手で作ってみることができたら素敵だと思いませんか？」

そんな呼びかけで集まった参加者の皆さんと一緒に、竹あかり作りを行いました。

選んだ型紙を竹の表面に配置して貼りつけ、竹用のドリルで穴を開けていきます。地道な作業でちょっとコツがいりますが、初心者や小さな子どもさんも、講師の先生の丁寧なご指導のもとだんだンドリルに慣れていきます。

穴を開け終わり、型紙を外して仕上げにブラシをかけたなら、世界に一つしかないオリジナルの竹あかりの完成です。

皆さんの作品は、8月13日に行われた盆踊り大会に彩りを添えてくれました。



プロに学ぼう

●中川公民館●

春季将棋大会(4月)



矢掛町にゆかりのあるプロ棋士の狩山幹生4段(当時)をお招きし開催しました。7歳から75歳までの参加があり三世代交流の大会となりました。

ドローン体験(5月)



空撮カメラマンとしてTV番組で活躍中の岡山県ドローン協会代表理事の森高博行さん(左端)からドローンに関する基礎知識と操縦の仕方を学びました。

公民館フェスタ&マジックショー(11月)



プロのマジシャンと大道芸人のコンビ「グランツ」のショーを楽しみました。写真は大道芸人のタイキさんのショーです。

スラックライン体験(1月)



スラックライン世界ワールドカップ優勝の大杉徹さんを講師にお招きし体験会を行いました。

小田地区ふれあい盆踊り大会

～中高生ボランティア「小田隊」大活躍！～

●小田公民館●

平成29年度の開催を最後に、災害やコロナ禍、台風などで中止が続き、今年度7年ぶりに盆踊り大会を開催することができました。天候により体育館での開催となりましたが、中では盆踊り・外では屋台が並んで賑わいました。今年度も小田公民館の中高生ボランティアグループ「小田隊」が結束し、和太鼓の伴奏や屋台で活躍してくれました。屋台では何度も試作を重ね、みんなで案を出し合い、8月15日の当日を迎えました。世代を超えて地域住民がつどい、ふれあう盆踊り大会となりました。

「小田隊」は、今年度矢掛町生涯学習のつどいにおいて、教育委員会から感謝状をいただきました。



学 校 教 育 こ の 一 年

教職員の働き方改革に向けて

子どもたちへのよりよい教育の実現、魅力ある学校づくりを進めるために、教職員の働き方改革が求められています。学校教育における子どもたちの健やかな成長と豊かな学びを実現するためには、教職員が心のゆとりをもちながら毎日元気に子どもたちと接し、教育活動に集中できる環境を作ることが大切です。

各学校では、会議のペーパーレス化、保護者連絡アプリの活用、週時程の見直しなど、様々な取り組みを行っています。中学校では令和5年度から定期テストを単元テストに移行し、下校時刻は年間を通して17時としています。その結果、令和6年度、町内の教職員の時間外勤務時間は、令和4年度と比較して、約15%削減することができました。教育委員会では、令和6年度中に生成AI活用研修を3回開催し、教員が生成AIを授業や事務作業に活用するきっかけとしました。今後も生成AIなどのICTを活用することで、さらなる働き方改革を進めていきたいと考えています。



さらに、保護者や地域の皆様には、令和7年度以降、登校時刻を8時以降にすることと、学校の電話対応時刻を8時～17時とすることをお願いしているところです。ご不便をおかけする面もあるかと思いますが、ご理解ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



文化財の一年

重要伝統的建造物群保存地区矢掛町矢掛宿の防災計画が完成

令和4年度から作成に取り組んでいた保存地区に特化した防災計画が完成しました。これは重要伝統的建造物群保存地区である矢掛宿が木造建築の密集した地区であることから、発災時の被害を最小限とすることを目指し作成したものです。

まだまだ粗削りな部分もありますが、民間や地区住民と行政が、災害にどう立ち向かうかをまとめています。今後はこの計画をもとに保存地区の防災事業を進めていく予定です。



矢掛町矢掛宿伝統的建造物群保存地区防災計画策定委員会

毎戸遺跡発掘調査成果報告シンポジウム

11月23日、やかげ文化センターにて、「一千年のめざめ～古代交通遺跡・毎戸遺跡の謎にせまる～」と題したシンポジウムを開催しました。東京大学大学院の海野准教授をはじめとしてそれぞれの専門分野の先生方にご説明いただき、約200人の参加者は熱心に耳を傾けていました。パネルディスカッションでは、紹介しきれないほど多くの質問が集まり、毎戸遺跡への関心の高さをうかがい知ることができました。



毎戸遺跡調査成果報告シンポジウム

健康スポーツの一年

合併70周年記念 矢掛町民運動会

9月15、日矢掛町総合運動公園多目的グラウンドで、「矢掛町民運動会」を開催しました。

アトラクションとしてIPU環太平洋大学のチアリーダー部による応援パフォーマンスから始まり、関係団体立案による競技種目や豪華景品が当たるスペシャル抽選会を行うなど集まった約1,400人は大いに盛り上がりました。



合併70周年記念 宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」

11月16日～17日の2日間、元プロ野球選手20人が矢掛町を訪れ、「ドリーム・ベースボール」を開催しました。

1日目はB&G海洋センターアリーナで指導者を対象にした「指導者クリニック（指導法）」を開催。元読売巨人軍投手 堀内恒夫氏ほか2人の往年の名選手から投打の指導ポイントを伝授してもらいました。

2日目は、矢掛町総合運動公園野球場で、町内小中学校等の子どもたちを対象に「少年少女ふれあい野球教室」や、プロに挑戦「ホームラン競争」、「親善試合（ドリーム・ゲーム）」を開催しました。

参加した総勢約1,600人は、元プロ野球選手のプレイを間近に見て、プロの実力を改めて実感しているようでした。



やかげ郷土美術館 この一年

矢掛町合併70周年記念特別展

「判じ絵展～江戸のなぞなぞに挑戦～」【会期7/20～9/1】

江戸時代に大人から子どもまで広く庶民に流行した「判じ絵」の浮世絵作品約100点を紹介しました。会期中、判じ絵研究の第一人者である岩崎均史先生による講演会や言葉遊びを題材にした落語、和綴じ本をつくるワークショップ、一般公募した判じ絵作品の展示などを行い、多くの来館者が展覧会を楽しんでいました。



矢掛町合併70周年記念特別展

「コンドウアキのおしごと展」【会期10/5～11/24】

絵本作家・キャラクターデザイナーのコンドウアキさんの展覧会を開催しました。「リラックマ」や「うさぎのモフィ」など、親しみやすく世代を超えて多くの方に愛されている作品の原画約180点を紹介。アイロンビーズでキャラクターを制作するワークショップも開催し、年配の方から小さなお子さんまで多くの方が来館されました。



書道パフォーマンス & 竹のオーケストラコンサート

5月12日、矢掛高校書道部による書道パフォーマンスと真備町を拠点に活躍する竹のオーケストラの皆さんによるコンサートを開催しました。高校生の躍動感あふれるダイナミックな大作や竹でできた楽器が奏でるやさしい音色をお楽しみいただきました。



やかげっ子おしゃべり美術館 & 学芸員出前授業

美術館・小学校連携事業 対話型鑑賞会「やかげっ子おしゃべり美術館」を開催しました。町内各小学校の4年生が、美術館でナビゲーターと一緒に作品を鑑賞し、思ったことや感じたことを自由に発言していました。併せて、当館学芸員が7小学校に出向き、美術館でのマナーについてのクイズやワークショップなどを行いました。



文化センターの一年

やかげ文化センターでは、矢掛町合併70周年を記念して多くの記念事業を展開しました。

自主事業として9月「ケロポンズ&福田りゅうぞう〜あそびうた〜親子ふれあいコンサート」、12月「令和6年度やかげ音楽祭〜優しさの70年 今までも これからも〜」を開催しました。

6月にはピアニスト近藤由貴さんをやかげ文化センター Primary Pianist（プライマリーピアニスト）として任命し、矢掛町音楽協会主催の就任記念コンサートを開催しました。この他に音楽協会では4本の主催公演を開催し、70周年記念の1年を彩りました。



山岡町長から近藤由貴さんに委嘱状を贈呈



ケロポンズ&福田りゅうぞう〜あそびうた〜親子ふれあいコンサート



町歌モニュメント設置記念イベント〜矢掛夢唄〜



矢掛町合併70周年記念公演会

図書館行事

開館25周年

2024

図書館開館25周年の2024年は、作家・澤田瞳子さんの講演会や倉敷芸術科学大学の先生による実験講座、文化センターホールでの映画会などさまざまな行事を行いました。また、8月からは中学生・高校生を優先とした自習スペース8席分を新たに設けて、集中して学習に取り組めるよう場所を提供しています。



科学実験講座
4/28(日)



澤田瞳子氏講演会
8/3(土)



ホールでの映画会
8/10(土)



自習スペースの設置
8/10〜



じゃんけん列車



工作教室(押し花)



おはなしらんど



えいごであそぼう

図書館フェスティバル
8/3(土)

定例行事
(月1回)